

第7回 ニッケピュアハート エッセー大賞

<高校の部 佳作>

「父ちゃん、ありがとう」

吉原智妃桜

進路の事で父に「進学したい。」と話したが、父は反対していた。

私は、フラワーデザインを勉強したいと思っている。フラワーデザイナーになるには、資格が必要である。その資格を取得するために技術を身につけたくて、専門学校へ進学を考えている。

父は、私に地元を離れてほしくないらしい。でも、私が勉強したいフラワーデザインは、地元で勉強のできる学校がなく、地元を離れ県外に出るしかないのだ。それで父は、進学をすることさえも許してくれない。

しかし、私は諦めきれず、数日後、父に志願理由を書いた原稿用紙を渡した。父から返ってきた言葉は「いいんじゃない」。私が進学することを許してくれたらしい。私は、それだけでもすごうれしすぎて、部屋で泣いてしまった。

入試が近づいてきて、私は、準備を始めた。入試の日、県外の入試会場まで父は車で送ってくれた。入試の日は平日で、父は私のためにわざわざ仕事を休んでまで送ってくれたのだ。それは、父が私を大切に思ってくれて、入試会場まで見送りに来てくれたのだと私は思う。

正直言って、我が家に進学ができるお金の余裕がないのは、自分でもわかっている。それでも父は私の夢のために進学を許してくれた。入試会場まで送ってくれた。そんな父に感謝の気持ちでいっぱいだ。そして、私をいつでも心配し、応援してくれる父が私は大好きだ。この思いをいつまでも持ち続けたい。